



第14回目は**大桑村での災害とその予知**について報告します。

台風シーズンも終わり、今年は特に大きな災害を経験しなかったように感じます。しかし、大桑村の各所を調査してみると、普段は見えないところで甚大な災害が発生していたことが分かりました。今回はその被害の状況と、村内の気象情報入手について報告します。

大桑村は雨が多い

大桑村の年間降水量

2021年の大桑村役場での年間降水量は2,490mm^{*1}です。同年の長野市の年間降水量は1,075mm^{*2}なので**大桑村は長野市の2倍以上**、県内でもかなり雨の多い地域と言えます。

^{*1}:大桑村森林整備計画(令和4年) ^{*2}:気象庁2021年の日本の天候-別紙

今年8月3日の災害

8月4日の朝、伊奈川は泥の混じった茶色い水が流れ異様な状態でした。その為、木曽川も茶色い濁流となりました。須原のアメダスは18時から19時の間に23mmの強い雨を記録していますが^{*3}、それ以外の時間には降雨の記録はありません。しかし伊奈川ダム奥の一部では非常に激しい雨が大量に降った模様です。

^{*3}: <https://tenki.jp/past/2025/08/03/amedas/3/23/48716.html>

同日、伊奈川に沿った**伊奈川林道で大規模な土石流が発生**し、10月末現在も林道が土石流現場①と②で寸断されています。特に現場②(ダムから4.6kmのワル沢)は林道が数メートルの高さで垂直に深く削り取られており、対岸に渡れず、調査はここで断念しました。一方、今朝沢橋上流の今朝沢とその支流の福栃沢、伊奈川ダムとは別水系の越百川に沿う各林道には土石流被害は見当たりませんでした。

この事は**村内の限られた地域で発生した猛烈な雨が大规模災害を引き起こした**ことを示しています。

現地調査結果



<https://okuwa.pathpilot.life/?p=1635>



気象庁アメダス須原観測施設



気象庁が発表する大桑村の降水量は、大桑村スポーツ公園の北東の端にある降水量観測装置、アメダス須原の測定値です。村内にはこの他にも国交省や県の雨量計も設置されています。各種の警報等はこれらの雨量計の観測値を基に発表されます。

<https://www.jma.go.jp/bosai/amedas/#amdno=48716>



気象庁アメダス須原



長野県砂防河川
情報ステーション

<https://www.sabo-nagano.jp/>

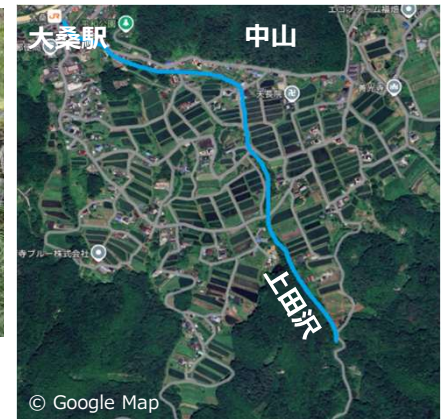
長野地区上田沢は一級河川

長野地区上田(かみだ)沢

長野地区の田んぼの間を流れる沢の上田沢は一級河川です。一級河川とは国土保全上又は国民経済上特に重要な水系で、政令で指定されます。指定の背景は上田沢上流に行くと分かります。

国土交通省・川の防災情報

上田沢の上流には巨大な上田沢砂防えん堤があります。そして国交省は24時間、上田沢砂防えん堤上流をカメラ監視しています。



大正12年の大災害の教訓から、上田沢上流で土石流等が発生した場合、上田沢流域の耕作地、居住地、鉄道、国道等に甚大な被害が発生すると予想されます。夜間でも大型投光器によりカメラ監視できる施設となっています。現在国交省が大桑村内でカメラ監視している砂防えん堤はここだけです。同じ一級河川である二反田川の砂防えん堤監視カメラは10月末現在配信停止しています。

村内には阿寺橋と和村橋にも国交省の監視カメラがあります。和村橋では木曽川水位もモニターしており、それらは国交省川の防災情報ホームページで見ることができます。



国土交通省 川の防災情報ホームページ <https://www.river.go.jp/index>

大桑村独自の気象観測施設

大桑村役場気象観測施設

大桑村は村独自の気象観測施設を持っています。大桑村役場、旧下在郷分館跡、伊奈川田光地区に観測装置があります。いずれの装置も雨量測定を行っており、観測結果はネットで見るができます。

これら村の施設に加えて、アメダス須原等と組み合わせて、村内各所の降水量を細かく知る事ができます。



大桑村役場気象観測施設 <http://kisyo.vill.ookuwa.nagano.jp/>



局所的に降る猛烈な雨が土石流等の大規模災害を引き起こす可能性があります。日頃、須原と野尻では雨の降り方に違いがあることを経験していると思います。気象庁のデータだけに頼らず、村内の各観測施設の雨量をこまめにチェックすることも大切です。